

# 欧米における日本書籍コレクションの軌跡

## 第一部

### 「収集145年：北米における東アジア図書館とそのコレクション」

カリフォルニア大学バークレー校 C.V. スター東アジア図書館館長 周 欣平 氏

### 「附：カリフォルニア大学バークレー校所蔵 日本語コレクションから一部資料紹介」

カリフォルニア大学バークレー校 C.V. スター東アジア図書館日本コレクション司書 マルラ俊江 氏

#### カリフォルニア大学バークレー校の事例：

19世紀後半、日本および中国から木版本が、渡米する学者および学生の所有物として、また日中の諸機関からの贈り物として、アメリカ合衆国イエール大学、米国議会図書館、ハーバード大学、およびカリフォルニア大学に所蔵されるようになった。中には数百年も前に印刷された著作も含んでいたが、これらの書籍は北米の東アジア・コレクションを広める最初の種となった。この講演では、それらのコレクションとそれに関わった人物について、個々の歴史ならびに総体的なプロフィールを紹介する。

上記、東アジア・コレクションの北米における歴史的発展に関する講演に関連させて、その一例としてカリフォルニア大学バークレー校の日本語コレクションから一部資料を紹介する。

## 第二部

### 「英国における日本語コレクション収集の歴史」

ケンブリッジ大学図書館日本語コレクション部長 小山 騰 氏

#### ケンブリッジ大学の事例：

英国における本格的な日本研究は、大学などを中心にして第二次世界大戦後に始まった。SOAS（ロンドン大学アジア・アフリカ学院）とケンブリッジ大学は Scarborough Report で近代日本語コレクションの収集を開始し、1950年代には英国図書館（旧大英博物館図書館）とオックスフォード大学も近代日本語コレクションの構築を開始した。1960年代には、Hayter Report によりシェフィールド大学も社会科学分野を中心とした日本語コレクションの収集を始めた。それらがいわゆる英国における四大コレクション（SOAS、ケンブリッジ、英国図書館そしてオックスフォード）であり、またシェフィールドを加えると五大コレクションになる。英国の四大日本語コレクションの一つであるケンブリッジ大学図書館の日本語コレクションを中心に、英国における日本語コレクション収集の歴史をたどってみたい。

## 第三部

### 「対談 日本古典籍デジタル化と日本研究の行方」

司会：立命館大学文学研究科 教授 赤間 亮

## 講師：

周 欣平 Peter X. Zhou

カリフォルニア大学バークレー校 C.V. スター東アジア図書館館長。武漢大学中国より英語学修士号、イリノイ大学アーバナ - シャンペーンより言語学博士号および図書館情報学修士号を修得。現職着任前は、ピッツバーグ大学、アイオワ大学、および武漢大学で勤務。現在アジア学会東亜図書館協会会長を勤める。また、西洋における図書館史および東アジア研究の発展について幅広く執筆および講演活動を展開。氏の編纂になる「Collecting Asia: East Asian Libraries in North America, 1868-2008」は、過去2世紀に渡る北米の主要学術図書館の東アジア言語文献収集の歴史をたどった最初の単行書である。学術書6著作および論文多数の著者または編者。

マルラ俊江 Toshie Marra

カリフォルニア大学バークレー校日本コレクション司書。大阪外国語大学イタリア語学科卒業後、UCLA 東アジア図書館に勤務。1997年には、UCLA 教育・情報学部図書館情報学修士課程を修了し、2000年より2012年まで UCLA 東アジア図書館で日本研究司書として勤務。2012年以降、カリフォルニア大学バークレー校日本コレクションの司書。

小山 騰 Noboru Koyama

1985年より現在まで、ケンブリッジ大学図書館 (Cambridge University Library) で、日本語コレクションを担当 (日本部長)。成城大学および慶応大学大学院 (修士) で日本史を専攻。数年にわたり国立国会図書館に勤務。その後渡英し、英国の公認図書館員の資格を入手。現在、MCLIP (Member of the Chartered Institute of Library and Information Professionals) である。

2013年 12月 11日 [水] 18:00- 19:30

立命館大学アート・リサーチセンター  
2F 多目的ルーム

[入場無料・予約不要]

\* 立命館大学大学院 文学研究科 行動文化情報学専攻 文化情報学専修は2014年度設置予定です。